

## 平成 28 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

本概要は、平成 28 年 3 月 8 日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

### 【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿った日頃の学習で積み上げられた学力を測るものであるため、問題作成にあたっては、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力・分析力等を問うものとなるよう配慮した。

全ての教科に共通する学力の傾向は、

- ①基礎的・基本的な事項については、概ね定着している。
- ②題意を的確に読み取り理解する力や、論理的・総合的に考え、適切に処理・表現する力に課題がある。

### 【国語】

漢字・文法など基礎的・基本的な学力が身についており、中学校における学習の成果がうかがえた。その一方で、文章全体を俯瞰して論理の構成を読み取る力、登場人物の心情を適切な言葉で表現する力などには課題が残った。また、全体的に出題の意図や条件を踏まえて的確に答える力には個人差がみられた。今後は、基礎事項の確実な定着とともに、「話すこと・聞くこと」の領域も含め、目的や場面に応じて思考・判断し、適切に表現する力のさらなる育成が望まれる。

### 【社会】

地理・歴史・公民分野とも、基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、歴史的事象の並べ替えのように、事象間のつながりを理解し、歴史の流れを大観して考える力が必要な問題では正答率が低かった。また、E U がつくられた目的や選挙権年齢の引き下げについて説明するような、資料を適切に読み取り制限字数内で表現する問題での正答率は低かった。基礎的・基本的な知識の確実な定着とともに、資料活用能力の育成と言語活動の充実が一層必要である。

### 【数学】

基本的な知識・理解に関しては概ね定着しており学習の成果がうかがえる。一方、活用したり思考を深めたりすることには課題が残った。これは、計算の仕方や技能が優先され、問題文から必要な情報を読み取って処理をしたり、式や計算の意味を解釈したりするところまで至らず、推測したり、確かめたり、発展させたりする力が十分身につけていない。問題文の情報を整理し数学的に処理する力、理由を言葉で説明する力、身につけた知識・技能を解決に活用する力の育成が望まれる。

### 【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は高かった。一方、計算式を示して説明する問題や記述問題などの思考力・判断力・表現力を必要とする問題では正答率が低かった。また、昨年度よりも無答率が高くなった。自然の事物・現象について主体的に探究し基本的なことを正確に理解するとともに、文章やグラフなどを読み取る力、観察・実験の操作方法を説明する力、結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力、実生活や他教科で身につけた知識・技能を活用する力の育成が必要である。

### 【英語】

放送による英語の聞きとり問題の正答率は総じて高かったが、聞くことと書くことの技能を統合的に活用する力には課題が見られた。まとまった英文を読む問題では、概要や要点を正確に読み取る力が不足していた。特に、英語の質問に英語で答える問題においては低い正答率であった。場面にふさわしい表現を用いたり、自分の考えを書いたりする問題においては、無答率が減り、表現しようとする意欲を感じる一方で、前置詞や動詞の使い方、語順など基礎的な知識が定着していない。基礎的な知識・技能の定着とともに、それを活用する力の育成が必要である。